



新しい ALT を紹介します


A L T は Assistant Language Teacher の略で、日本語では外国語指導助手と訳されます。小・中・高等学校での外国語活動や英語の授業の補助のほか、地域の様々な国際交流活動に参加・協力するなど、国際理解を深める活動をしています。

教育委員会では、現在 9 名の A L T を任用していますが、8 月に 4 名が入れ替わりました。4 名に日本の感想や今後の目標を聞きました。



感じました。子どもたちは、本当にかわいくて元気です。子どもたちが英語をもっと話せるように、言葉の壁をなくせるようにがんばることが、私の今の目標です。

Yu Edwin
ユー・エドウィン
 ニュージーランド出身




東京に着いたときには蒸し暑いと感じましたが、岩見沢は涼しく、また農地が多いところは、故郷の町と似ていると感じました。日本の学校には母国と違うところがあります。例えば母国では教室で一緒に昼食を食べたり、掃除したりはしません。でも日本では、みんなで給食を食べて、みんなで楽しみながら掃除をしています。日本の学校はとてもおもしろいなと感じました。

Loh Yixian
ロー・イーシェン
 シンガポール出身




初めて日本に来たときは、とても緊張していました。しかし学校へ行ってみると、先生方はとてもすばらしく、私は一人じゃないんだと感じることができました。たくさん質問しても丁寧に答えてくれるし、真剣に仕事に取り組む姿には本当に感動させられました。また、子どもたちが掃除をする姿や給食の配膳をする姿から、日本の子どもたちは小さいときからこうやって自主性や責任感を学んでいるのか、と驚きました。母国では、教師として 4 年間英語を教えていましたが、ネイティブスピーカーではない生徒に教えるのは初めてです。日本では、子どもたちが英語を大好きになってくれるように、楽しい授業をしたいです。

日本を持ってくればいいじゃない」と思いました。いつの日か母国に戻ったときに、日本大使館や大学など、いろんなところで日本をたくさん紹介できるように、日本文化を学びたいと思っています。

Siewarran Sonia
スーサーラン・ソニア
 トリニダード・トバゴ出身




日本の先生や生徒たちの勤勉さや意欲には、とても感動しています。すべてのことに対して一生懸命な姿は、とてもすばらしいと思います。私の母国から日本へ来ることは、とても難しいです。だから私は「トリニダード・トバゴ」



Edridge Michael
エドレッジ・マイケル
 ニュージーランド出身




日本の子どもたちは、とてもすばらしいと思います。掃除のときや給食のとき、校庭で遊ぶときでも、いつも責任感を持って行動しているように感じます。また、雨の日に店の入口にある傘に袋をかぶせる機械や、時間どおりに走る電車など、その一つ一つから日本は本当に効率的で、便利な国だと感じています。日本での私の目標は、子どもたちをやる気にさせて、英語を学ぶだけでなく、国際的な人になってもらえるようにすることです。

